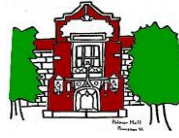


ななかま

プリンス日本語学校新聞



平成24年度 No.33号

平成24年1月20日

文責 長尾重範

インフルか 咳をするなよ レジの人
草枯れの 平原続く ひねもす見る

書き初め展示会 幼稚部書き初め

行事予定表

1月27日 JASL Fall 終了(2月3日 Spring 開始)
2月10日 新小1入学者合同説明会
2月17日 古本セール
2月24日 幼稚部説明会

ロックダウン訓練について

本校でも火急のことに備えてロックダウン訓練を計画しています。訓練に遭遇されましたら直ちに最寄りの教室に避難し生徒と共に行動してください。くれぐれもご協力を宜しくお願いします。内容の詳細については、次回以降にお知らせします。

Active Shooter Response

ライダー大学の緊急連絡 HP の内容のいくつかを紹介합니다。キャンパス内で銃所持者が現れた時に何ができるかに答えたものです。この種の状況は予期できないし公安の到着前の10分以内に起こってしまうとも述べています。

- 銃声を聞いた外に出るか隠れること
- 身の安全が確保されていれば 911 か PUBLIC SAFETY (609-896-7777) に連絡をすること
- 直ちに危険な場所から建物の外に出て隠れること
- 公安が到着したとき、指示に従うこと。手に持っている機器類を置いて手をあげ指を広げる。急な動き、指さし、叫び声をあげたりしない
- 逃げることができない場合は陰に隠れて賊の視界に入らないようにする
- ドアを閉めロックしバリケードする
- ライトを消し音の出る携帯などを消す
- 賊の視界に入らないように部屋に散らばって隠れる
- ライダーアラート、室内電話システムの指示に従う
- 最後の手段として、命の危険がある時には、チームとして賊を一致して攻撃する

日本の学校(4)「教科書はどうか変わったか?」

学校の教科書は、文部科学省が作成する学習指導要領に基づいて教科書出版会社が作成します。因みに、国外の児童生徒の使用する教科書は、国内でも多く使われているものが、無償で提供されています。

さて、私たちが使用している教科書は上記のような過程を経て手元に届きますが、そのおおもとを決めるのは文部科学省の教育課程審議会等の委員会です。審議会の委員は、現在使用している教科書や児童生徒の学力の状況などを調査したり、日本社会や世界に通用する学力とは何かを考えて、学校で教えるべき義務教育の将来の方向性を決定します。そこで今回の改訂内容について目新しい内容と思われる中心的言葉をあげてみます。①生きる力をはぐくむ教育 ②知・徳・体のバランスのとれた教育 ③脱ゆとり教育 ④授業時数の増加 ⑤基礎的な知識と技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力の重視 ⑥総合的な学習の時間を縮小 ⑦小5・6で「外国語活動」の創設

上の①については前回の改定時に用いられ、今回も継続的な大きな柱になっています。生きる力とは「自ら学び自ら考える力」であると定義され、情報化社会で生きるために必要な力を身につけることが義務教育の中心的目標になります。そのことについては多くの識者が支持するところでしょう。そしてそれを支持する根拠となった情報として注目を集めているのが、OECDが3年に一度実施しているPISA(世界各国の15歳を対象にした学力調査)の日本人の成績が相対的に低下していることです。調査内容から明らかになっているのは日本人の学力は、知識理解力に比べて応用力が低いことです。ですから①が引き続き目標となっていると思われます。②については強調するまでもなく、バランスのとれた人格形成を目標にするということは大事な必要条件になると思います。③④については、前述の学力低下への危機感から生じた大きな方向性の転換を示しています。実際には国語、社会、数学、理科、保健体育、英語の時間数の増加と、「総合的な学習の時間」の減少として表れています(中学校)。全体としては週当たり1時間の増加となり、具体的には5日間とも6時間授業を行うことになりました(中学校)。

学校現場を担っている先生方はどのように受け止めているのか少し気になります。